

第2回 油日学区幼保・小中学校再編検討協議会 議事概要

1. 日 時：令和2年1月21日（火） 19時30分から21時00分

2. 場 所：油日コミュニティセンター ホール

3. 出席者：委員12名（欠席3名）
事務局（市）4名

4. 議事内容

1) あいさつ

<委員長>

・事務局職員自己紹介

2) 会議の概要報告について

[事務局より資料1説明]

事務局)「5名以上はおかしいのではないか」という意見について、傍聴は5名以上を基準とする。広い会場ではできるが、狭い会場では3名程度になるので、ご理解いただきたい。

委 員) 議事の結果概要は項目だけになっている。簡単でよいので、こんな意見が出たというのがいるのではないか。

委 員) 議事録は必要か。

事務局) 細かなところまでは載せていない。決定していただければ、委員長と相談し載せる。どこまで載せるかも協議いただき、検討していただきたい。

委 員) どういう意見が出たかぐらいは載せてほしい。

委 員) それぞれの委員が意見を出し、地元として最終の意見を出していくので、要旨は載せていくべきではないか。

委 員) ある程度の方向性を示して載せればいいと。

委 員) どこに乗せるのか。

委員長) ホームページ（以下「HP」とする。）

委 員) 一体、どんな話をしているのか発信していくべき。

委員長) 自治振興会でも出す予定をしているが、なかなか見てくれない。学校から配布するほうが良いのか。

委 員) 発信する方法を考えないと。

委員長) 学校から持って帰って保護者に見てもらおうほうが良い。そうしましょうか。

委 員) HPで公開しても、興味のある人しか見ない。

委 員) 学校の校報で流すのは違う。

委 員) 自治振興会が出すのか。

事務局) HPがあるが、チラシを協議会で作られたところもある。全戸配布や組回覧等様々。

委員) どんな反応か。

事務局) 区の常会で配られ、話をされるとか、配るだけ意見は出てくる。近くの委員さんに伝えてもらったりして吸い上げてもらう。出し方でリアクションは変わってくる。

委員長) はじめは小学校で、市のHPで見られることを一人一人に配る。あとは見てもらう。区長にも渡し、検討してもらうことでどうか。

委員) 概要報告にどこまで書くのか。要旨だけは必要だろう。それがHPに載る。発信は別ではないか。

事務局) 第3回に合わせ、1回、2回の概要について決定いただき、HPに載せることでどうでしょう。

委員) 行政はいいことしか書かない。何のために録っているのか。議論したことは出してほしい。

事務局) 地域からいい方法を選んでもらう。

委員) HPに載せる前に確認してから載せることでどうか。

委員長) 双方で確認してから載せるということによろしいか。

委員) 発信は市として「このように」という決まりはないですね。

事務局) できる限り地域の思いを実現していきたい。市として必ずという形はない。公開、非公開についても同じである。

委員) HPに資料はのせるのか。

事務局) 資料はこれまでは載せていない。

委員) HPを見たときに資料がないとわからないのではないか。

事務局) 非公開の資料があってもよい。公開していこうと決定されてもよい。

委員) わかりやすいのなら、載せるほうが良い。リンクさせるとか。

委員) 検索しないと出てこないより、すぐ出てくるように。

委員長) 資料も公開で、リンクもお願いします。

事務局) HPの掲載について、次回示させてもらう。

3) 児童数、園児数の推移について

〔事務局より資料2説明〕

事務局) 今後の数字は、この時点にいるお子さんについて推移させている。

委員) 減っていくのはわかる。令和7年度の1年10人は、油日学区で生まれた子ですね。若干増えるかもしれない。転入などもあるかもしれない。

事務局) 転入出があれば変動する。

4) ワークショップ

《2グループにわかれて小学校について実施》終了後グループごとに主な意見を発表

※意見については別紙のとおり

5) 次回 (第3回) 協議会

日時 : 令和2年2月21日 (金) 19時30分から

【現在の学校・規模のメリット】

- 再編すれば今の良い環境が維持できないのではないか。
- 人数が少ないと手厚く見てもらえる安心感がある。
- クラス替えでいじめが根本解決するものではない。
- クラス替えで力関係が解決しなかった経験がある。
- 人数が少ないということは、学習という側面ではメリットが大きい。
- 油日小学校は平和で非常に良い環境にある。もし統合された場合、環境がどう変化するか不安な面がある。
- 小規模校は、先生に子どもを手厚く見てもらえるという安心感がある。
- 小規模の方がゆとりをもって学習できるのではないか。
- 進学などで次へ進むときに不安を感じるかもしれないが、友だちとつながりながら交友関係は広がっていく。
- 油日は交通は便利なところである。
- 学年の枠を超えた異学年交流は、少人数でも様々な子ども同士の関わりが可能となる。少人数でも多様性を生み出すことはできる。

【再編によるメリット】

- ・子どもの人数が増えると、発想の違いによる多様性が出てくる。子ども同士の学び合いの機会が増加する。
- ・イジメがあった場合、クラス替えをするなどの手法が大規模校ではできる。複数の学級があることが重要で、イジメの解決方法も多様になる。
- ・いじめの解決に向け取り組んでいるが、どうしても解決できない場合のシェルターとしてクラス替えはできたほうが良い。
- ・クラス替えはグループ内での力関係のプレッシャーを緩めることができる。
- ・小さい時から多様に触れることで、中学生になった時のギャップを乗り越える力もつく。
- ・大規模校では子ども同士の関わりが多くなり、子どものコミュニティの中での学びや解決方法の模索などの機会が頻繁になるというメリットが大きい。

【その他】

- ◇少ないのは少ないなりのメリット、多いのは多いなりのメリットがある。
- ◇規模よりも教師の熱意・質が重要。
- ◇甲賀の3小学校はそれぞれに特色がある。合併したら、その特色はどうなるのか。
- ◇複式になるほどの人数になったときには考える必要がある。
- ◇いじめ、不登校、学力不振のため、何とかしてほしいという要望は地元からはない。
- ◇親としては、今の環境に一番関心があるが、将来どうなっていくかについても不安がある。
- ◇油日小学校は30人学級だが、算数などは先生が2名入って、15名ずつで教えてくれている。大規模校になったとしても、手厚く指導してもらえるのが理想である。
- ◇人間関係の問題は、人数とは無関係。
- ◇学力の向上については、冷暖房完備など環境整備が大事。